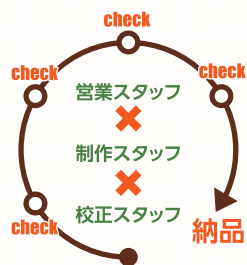




かっぱ？ さらわれる。

一文字ちがい
大ちがい

たった一文字でメッセージの異なる文章。
私たち大和写真工業はコバひとつとつを大切にするため、原稿整理、デザイン制作、校正、検品まで、常にお客様の期待以上の品質を目指し、スタッフ一丸でチェック体制に取り組んでおります。もちろんお客様が気づかない支給原稿の誤りもチェック、「ありがとう!」のおコバが何よりうれしい!



D-WAVE 10

大和写真工業(株) 本社 大阪府豊中市三和町4-3-1
高槻支店 大阪府高槻市明田町1-12

TEL 06-6333-1180 (代)
TEL 02-6681-1805 (代)

FAX 06-6333-2445
FAX 02-6681-1830

大和写真工業(株)が毎月お客様へ
印刷・複写・デジタルのお役立ち情報をお届けします。

ディー・ウェーブ

D-WAVE

MONTHLY
NEWS LETTER PRESS
Vol.129

2018
10
October

あんなに
あんなに



とれたて
旬のアイデア
召しあがれ

「やっと捕まったか...」、「えーっ、山口県?」。

大阪に住む方ならピンときますよね。例の富田林署から逃走したあの人が48日ぶりに何と350km離れた山口県で逮捕されました。これで毎晩帰宅時に自分で玄関のカギを開けなくていいわ、という同輩も多いのでは? 日本一周の自転車ツーリストになりすます悪知恵は巧妙ですが、職務質問してそのまま取り逃がしていた高知県のおまわりさん、もっとしっかりしてくださいー!

食事を提供したりして結果的に手助けしてしまった人もいたそうですが、これは「困った人は助けてあげる」、という日本人のいいところ。

こんなことがあっても、この心は無くしたくないですね。

代表取締役 鶴井宏尚

読書の
秋ですよー

わたしの 心に残る1冊

本好きな当社スタッフに

「心に残る1冊は?」と聞いてみました。
読書家にとって1冊を選べと言うのは酷なこと。
百も承知でそこを、あえて言うならばで
1冊を選んで頂きました。

「大誘拐」天藤 真 著

物語は三人の若者が、大富豪のおばあちゃんの誘拐計画を立てるところから始まります。

苦勞の末、誘拐に成功しますが、おばあちゃんに、誘拐計画のずさんさを指摘され、段々とおばあちゃんのペースに巻きこまれ、ついには、おばあちゃんが首領になり、自分自身の身代金を要求するという方向へ。その額が、なんと百億円。ここから、家族、警察、マスコミはもちろん、その身代金の巨額さ故に国会まで巻き込んで、荒唐無稽とも言えるような物語が展開して行きます。はたして、その結果は…。

興味のあるかたは、是非読んでみて下さい。私は一度読んで、ストーリーが判っているにも関わらず、暫くしたらまた読みたくなり三回以上は読み返しています。それほど、私にとっては面白いお薦めの一冊です。

画像情報課 松尾和弘

「半七捕物帳」岡本 綺堂 著

明治5年生まれ作者が大正6年から昭和11年にかけて書いた日本初の「捕物帳」。

作者の岡本綺堂が日本で、しかも江戸を舞台にシャーロック・ホームズのような推理小説を書こうとしたのがこの作品。ホームズのような化学的な手法を用いて推理を行うことはないですが、人間の心理やその行動から推察し、人殺しや誘拐、はたまた幽霊などの怪異騒動などを解決する様子は、絶然とした推理小説と言えるのでは。

その推理小説としての面白さに加え、まだ綺堂の身近にあっただろう江戸の残り香を、流れるような美しい文体で描き、江戸の情緒が瑞々しく表現され、それが物語になおさらの魅力を与えています。

推理小説好きも時代小説好きにも心に残るオススメの1冊です。

制作課
吉川 敬子

本社事務所
松下 綾乃



高槻支店 営業部 中村 純也

「容疑者」ロバート・クレイス 著

銃撃戦の中に自分も負傷したうえに相棒を失ってしまった警官スコットと、同じように、従軍中に海兵隊員の相棒を失った元軍用犬のシェパードのマグーが、新たに警察犬とそのハンドラーとしてコンビを組んで事件を解決していくストーリー。

助けを呼ぶ為に現場を離れたことを相棒が誤解したまま死んでいったことがトラウマとなっているスコットが、逆に銃で撃たれても決して相棒のそばを離れなかったマグーを、自分の警察犬に選んだことが、とても印象的。

犬と人間との大昔からの絆で、お互いのトラウマを克服していく過程は、子どものころからシェパードを飼うことが夢だった私には、とても羨ましい。

「哲学」島田紳助 松本人志 著

お笑い界の頂点を極めた二人が「笑い・友達・恋愛・お金・日本」などについて人生論を語った1冊。

お笑いと言えば紳助さんは、とことん細かく計算をして積み上げていくお笑い。松本さんは、天才的センスで笑いを追究し、積み上げたものを崩していくお笑い。互いのお笑いは違っても含蓄に富んだ金言があふれていました。印象に残ったフレーズを何点か。

「誰かに少し負けていると感じた時は、実はかなり負けている」「人間が欲しいと思うものは自分には買えないもの」「何でも最初にするのが結果的に楽。2番手以降はより要求レベルが高くなる」など。

2002年発行ですが、本編で述べている人生哲学は、全然色あせることなく今でも輝きをはなっていると思います。

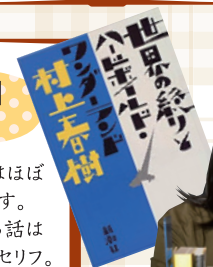
「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」村上 春樹 著

夏目漱石は代表作のみでしたが、現代の漱石こと、村上春樹はほぼ読破。中でも「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」が好きです。

現実(ハードボイルド)と幻想(世界の終り)の話が交錯しながら話は進みます。なんだか理解できないままに、私を虜にする言い回しやセリフ。これぞ村上ワールド♥読み終えた頃には、暗い穴に落ちた感じです。

最近では、ジャンルを問わずあまり心にもたれないビジネス書が多くなっています。

この秋は、ぐっと心を揺さぶられる例えば、レイモンド・チャンドラーの「長いお別れ」を読もうかな。探偵フィリップ・マローウの男気にしびれ、名セリフに打ちのめされたいわ。(笑)



制作課 西矢 貴子

ISO14001
活動レポート



本社・
高槻支店

産業廃棄物の削減

今期の産業廃棄物の重量は昨年同月度に比べて18%削減出来ています。
有機溶剤の取り扱い等、更に規制が厳しくなっていますが、
社員全員の意識向上で更に削減に努力してまいります。

画像情報課 和田 努